

総計	研究生	選科	特別学生 小計	本科小計	師範科		建築科	工			科			
					特別学生	本科		漆工部	鍍金部	鍛金部	彫金部	圖案部		
一五三二二二一八五一七九			一	一五二二〇四一八五二七八	一	一八	一〇	一〇	六	五	七	一九	二二	二一
七〇		三	五	七〇		二二	二二	一六	七	二	六	二二	二二	二二
一			一	一		二四	一七	一〇	一〇	六	六	一五	二四	二四
五六八五六	五六			七九〇		二五	二六	九	一〇	二	七	二四	二四	二四
五六	五六			七九〇		二	四	五	六	三	三	五	五	九一
			七			一	九〇	八〇	五二	四二	二二	三五	三五	三五

⑯ 卒業  
昭和二十二年九月三十日、左記の生徒が卒業した。

日本画科  
中川 一郎  
新井 宏侍  
油画科  
中神 潔  
日和田 利正

森田 信夫  
工芸科圖案部  
石川 進  
吉田 左源二  
工芸科鍍金部  
岸 武

⑰ 研究科廃止

昭和二十二年九月三十日、研究科が廃止（二月十八日）されたため、在籍者五十六名（油画二十名、塑造九名、木彫六名、圖案五名、彫金六名、鍛金四名、鍍金三名、漆工二名、日本画一名）が修了とされた。



油画科教室にて（仁田三夫氏撮影）

⑱ 学校の現状

昭和二十三年春、文部省行政監察委員会は「国民全体の奉仕者たる官吏の積極的活動を促し、真に国民の要望する民主的能率的新官吏道を確立する」ために文部省直轄部局等の行政監察を実施することになり、本校もその通達を受けて報告書を提出した。その控えに昭和二十二年現在の概況が記されているのでここに転載する。

昭和二十三年二月十日

学校長

文部省行政監察委員会あて  
部局の自主的監察報告  
首題に就ては文監三九号を以て報告方御通達に依り別紙の通り報告致します

一、監察組織

監察委員長 學校長 上野 直昭

監察委員 教授 村田 良策 (教務課長)

同 同 脇本十九郎 (文庫課長)

同 同 西本 順 (生徒課長)

同 事務官 中村 正義 (総務課長)

### 一、監察方法

監察の為の特別なる方法を講じてはないが各課長が委員である為め自己の課に属する課長の勤務○事務處理○官場秩序○等に就ては絶へず監察し不都合の事があれば其都度之を指摘是正してをる 具体的方法としては出勤簿○行事予定表○勤務日誌等を作成し監察の方法とすると共に必要の都度監察委員會を開いて處理する

### 二、監察の結果

#### (1) 勤務状況

勤務状況は一般に良好と認める。

本委員会成立後優秀職員三名を文部事務官(三級官)に任用し勤務状態不良なる職員を解雇す

#### (2) 事務處理の状況

事務處理は概ね適切である。

事務處理の適正なる配分が責任○能率に影響するところ大であるから之の事に就ては絶へず監察し適材適所主義に徹する為め目下配置轉換を考慮中である

本省への希望。同一事項に就ての照會調査報告等を各部局が個別的に要求することがあるが注意して頂き度い

### 三、官場秩序の監察

官場秩序の保持は大体厳正である。

### 四、其他

#### (1) 火災豫防

火災豫防対策に就ては夜間特に警備員三名をして午後五時より翌午前七時三十分迄の間に九回構内外を巡回せしめ居るも本校内建築物は主に木造建瓦葺及亜鉛板葺にして何れも明治年間の建築に係り三十年以上を経過し為めに腐朽甚しく雨漏多く従つて電灯配線に於ても相当不良箇所多く急速に改修に迫られ居るも豫算不足にて實現困難にして憂慮し居り加ふるに終戦後戦災の為め家を失ひたる生徒及教職員の構内居住者の各室の配線も危険箇所多く之れ又改修予算を豫算掛及施設局を通じ増額方要求中にして増額を得るまで居住者は勿論警備員を督勵細心の注意を拂ひ萬遺憾なき様期しつあり。

#### (2) 學生生徒の福利更生

内職幹旋○學徒援護会の利用○學校聯合食堂組合の利用○文部省鶴ヶ島學校聯合農場の耕作。

(昭和廿二年度 文部省報告(総務))

### ⑲ 構内居住者

昭和二十二年二月十日、本校は左記の通告を發し、戦災で家屋を失い、構内に居住していた者の一部を立退かせた。

學校長